

土砂災害が起こる前には前兆があります。
しっかりと、見逃さないようにしましょう。

土砂災害発生の種類

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)



地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちるのががけ崩れです。

地すべり



比較的緩やかな斜面において、地中の粘土層などの滑りやすい面が地下水などの影響で、ゆっくり動き出す現象です。

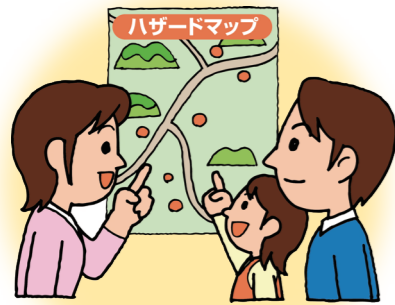
土石流



谷や斜面にたまった土や石、砂などが大雨による水と一緒に一気に流れ出して起こります。

資料提供：NPO法人土砂災害防止広報センター

安全に避難するために



自宅の危険をハザードマップで確認しておく

資料提供：気象庁「大雨や台風に備えて」、NPO法人土砂災害防止広報センター



土石流の流れに対して直角に逃げる



避難が困難な場合は2階以上、崖や沢筋から離れた部屋へ緊急避難

ため池の決壊



藤沼貯水池の決壊による被害

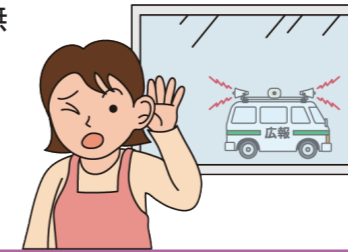
ため池(貯水池・ダム)の決壊は“内陸の津波”

大地震ではより大きい被害が報道されがちです。しかし、東日本大震災の福島県須賀川市藤沼貯水池決壊では死者を出す甚大な被害を出し、阪神・淡路大震災でも決壊こそないものの多くのため池に被害の発生が認められました。ため池の決壊は避難できる時間的余地が全くなく、強震後すぐに土石流が家屋を飲み込んでいく恐ろしい“内陸の津波”です。

写真提供：東北大学工学部土木工学専攻 水環境システム学研究室「藤沼ダム決壊調査」

避難時に必要となる様々な心得を知っておきましょう!

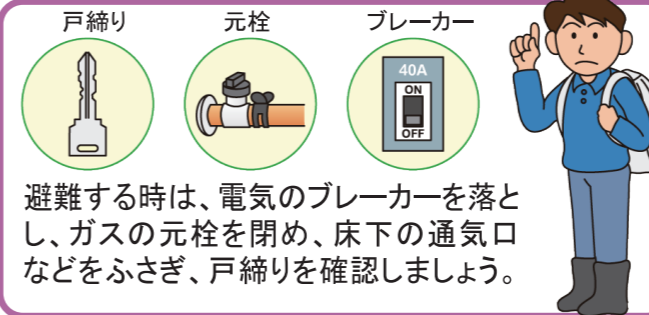
危険が迫ったときは、広報車や防災行政無線などからの避難の呼びかけに注意しましょう。



動きやすい服装で、軍手をはめ、ヘルメットをかぶり、長靴より紐で締められる運動靴かトレッキングシューズをはきましょう。レインコートは上下が分かれているタイプがよいでしょう。



避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



車での避難は、歩行者・緊急車両の妨げとなります。また浸水すると動かなくなるので使わないで下さい。



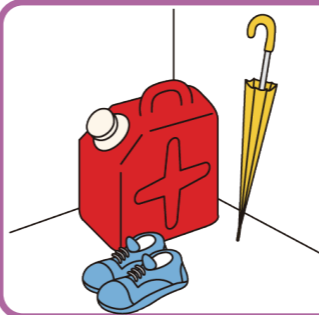
地下空間へは水が勢いよく流れ込み、水圧でドアが開かなくなる場合もあるため、できるだけ早く地上へ避難しましょう。



洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmまで。それ以上になったら建物の2階以上、または屋根の上で救助を待ちましょう。



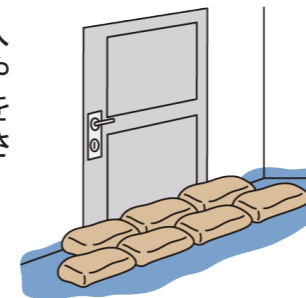
ポリタンクなど軽いものを屋外に置いておくと、浸水によって流れていってしまうので、事前に屋内に移しておきましょう。



浸水した場所を歩く時は、長い棒を杖がわりにして、マンホールや側溝がないか水面下の安全を確認しながら歩きましょう。



扉の下の隙間から水が入ってくるので、「水のう」や「土のう」、板などで全面を囲み、タオルで隙間をふさぐとよいでしょう。



切れた電線のそばなど、危険な場所に近寄らないで下さい。また、はん濫水には汚水が混ざっているので、子供などがさわらないように気をつけましょう。

